



No. 599

編集発行人 田中幹夫

治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟

〒113-0034

東京都文京区湯島2-4-4

平和と労働センター全労連会館内

電話 03-5842-6461

FAX 03-5842-6462

振替 00110-6-97793

定価 50円

青 森 県 版

2024年 5月 15日 発行

第 383 号

〒030-0904

青森市茶屋町11番5号

TEL 017-718-3166

FAX 017-718-3167

青 森 県 本 部

## 第28回 青森県3・15、4・16

## 大弾圧記念集会開催

四月十三日、青森市アピオ青森において第28回3・15、4・16大弾圧記念集会が開催された。

初めに主催者を代表して県本部の舘田篤廣会長より、東日本大震災やコロナ禍をのぞき開催されてきたことと、岸田政権の「戦争する国作り」を進めたことへのご褒美として米国への国賓待遇で招待された情勢が話された。

記念講演は、国賠同盟中央本部副会長の最上健造氏が「歴史の谷間の花に光を」―女性史に闘いと抵抗の歴

史を―と題して行われた。

国賠同盟東青支部が二〇二三年に取り組んだ、青森市カダールフェスタ(市民企画展)で取り組んだ「ジェンダー平等の学習会」が、重要な闘いだと話された。お話しは分かりやすく、丁寧な資料もつけて参加した五〇人の方が真剣に聞いていた。

この記念集会は、治安維持法による一九二八年三月一五日と翌年四月一六日に日本共産党への大弾圧を忘れないように取り組んでいるものです。

―沢目

山毛榉  
がな

▼小学生の頃、放課後自宅へ戻ると、北海道放送の「ベストテン北海道」というラジオ番組が流れており、偶然にもクラスの十数人も聴取していて、前日の放送を聴いていないとクラスの話題に入れませんでした。私は、中学・高校、そして今もテレビ・チューブよりもラジオが好きです。リュックの中にはラジオが入ってます▼東日本大震災発生時、市民ホールでの集会に参加しており、停電になるは、市営バスも動かず不安な思いで市民ホールで待機していた時、ラジオのポリウムを上げてみんなで聴いていました。一緒に聴いてた人が「停電回復したらラジオ買わなきゃ」と……。普段は午前十時半からのテレビオン人生相談と伊奈かつぺい旅の空・うわの天が楽しみです。

で聴いています。

(細)

# 三・一五、四・一六大弾圧記念集会 感想文



ユーモアあふれる講義にあつという間の時間でした。

戦前とはもなく、戦後も女性に対しての不平等、蔑視ともいえる事柄が根強く残っていることに怒りがわいてきました。

一人の人間として世の中を変えするために弾圧された女性たちの姿が目につかぶようでした。この歴史に生まれたそれぞれの生きざまに学びながら自分自身の糧としたいと思います。

最後に、女性が政治的集会に参加した場合に、罰金を科せられたことに驚きました。

(M・N)

今日は有意義なお話、ありがとうございました。

知らない事、たくさんあり、驚いております。

堀田善衛氏の言葉、水島氏の思い、加藤周一氏の方々の言葉、呼びかけ等々、本当にそうだと心から思っております。これらは、学校では習いません、年取った私たちが頑張らなければならぬと強く思います。

沢山の人が、戦前に闘ったこと等、もつともつと世間に知らせたいと思います。

“映画”等、もつと色々な所で上映したと思います。

(M・T)

## 上十三支部

## 三年ぶりに12名参加で総会を開催

コロナ禍のなか、手足を  
もがれたような状況で一堂  
に会しての総会を開けず、  
第七回・八回へ我が支部での  
総会は総会資料にお菓子を



添えて各同盟員に配って総  
会に代えていました。が、  
一応コロナが5類になり年  
内にどうしても総会を、と  
の思いから年末の忙しい最  
中でしたが、二〇二三年十  
二月二十二日、地区の事務  
所で第九回総会を開きまし  
た。

十二名が参加し、そのうち  
三名は新同盟員でした。  
必ず総会に合わせて何か勉  
強を、と考えていたのです  
がその準備ができていない  
ためできませんでした。ま  
た、新支部長を決めたかつ  
たのですがこれも決められ  
ませんでした。総会で次期  
の方針の中にあつた、全国  
女性交流集会・東北ブロッ  
ク交流集会への参加は実行  
できましたし、国会請願行

動に代表を送る予定です。

総会後、それぞれの近況  
報告や思いをフリートーク  
しました。新同盟員の方が  
「誘われて入って、送られ  
てきた『不屈』を読んで同  
盟のことが少しづつ分かっ

てきた」と話してください  
ました。勉強会や諸活動を、  
新同盟員の方々と一緒にし  
っかりやって活気を取り戻  
したいと強く思いました。

(記 砂渡久美子)

## エッセイ

私が出会った子どもたち…… ⑥5

## 『剛人・たけひと』(仮名・高校生)

一戸義規

2年前のことです。  
「子ども未来」の事務局(二戸)  
に、剛人の母親から相談が  
ありました。その内容は次  
のようでした。

息子・高校一年生の剛人は、  
4月に生徒会の事務局員に  
なりました。連休明け、S  
NSで見つけた性的な画像  
を載せて広げたことが発覚し、  
高校から「停学」の処分を受

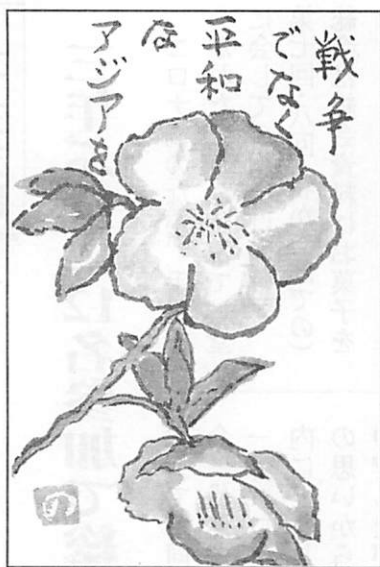
けました。その際、担当の  
教員から「今度やったら退学  
だ」と言われました。この高  
校では「ネットのトラブル  
は2度目で退学」となってい  
るようでした。(この規則の  
高校があることは県教委も  
認めています。)反省文と毎  
日、日記を書いて、やがて「停  
学処分」が解けました。母親  
は、退学になつては大変と

心配して、しばらくスマホを取り上げましたが、当然ですが長続きはしませんでした。剛人は生徒会事務局を辞めました。

2学期になり、生徒会事務局のAからネットで相談がありました。内容が「生徒会の行事の放送機器の担当者誰にしたらいいか紹介してほしい」というものだったので、剛人は「Bは部活が忙しいし、Aは機器の扱いがうまくないし、Dがいんじやないか…」という内容のメールを送り返しました。

Aはこのメールを生徒指導部で生徒会担当の若い教員・Xに見せました。すると教員・Xが、Aに「Aの欠点をメールに載せている。お前は嫌ではないか…」と問い、Aが「メールに出されると嫌だな…」と応えました。このことをXは生徒指導部に「一度停学になったAがまたやった…」と報告し、学校はAから聞きとりをし、2度目の停学（無期停学）になりました。「今度どうなるか、このまま退学になってしまわないか…」という不安の相談でした。

絵手紙 野坂峯子（東青支部）



私は、この学校の「停学・退学」による脅しとも言える人権無視の指導で、以前にも相談を受けて解決に動いたことがありました。ま

た同じような、それ以上の状態に怒りを感じながらも、母と面談しました。

……「無規停学の『無期』は脅しであり、長くて2〜3週間であること、今回（2度目）は、若い教員・Xによって、意図的に被害者がつくり出されたことを考えると、学校は『退学』にすることはないだろう。もし退学の動きになったら私が校長に会いに行くのですぐ連絡してほしい…」と伝えました。

間もなく、Aの停学は解けましたが、また母親から連絡がありました。「2回目の停学なので、週1回の生徒指導主任との面接指導を受けなくてはならない。毎回反省文（現状報告）を書いて提出するというのを、学校がOKを出すまで続けるといことになり、Aが落ち込んで学校に行きたがらない」ということでした。今度は、母親とAの二人

と面談しました。Aは小柄で大人しそうな高校生でした。私は二人に「Aに悪意がなかったことに自信を持つこと、反省文はパターンを決めて、毎回少しだけ変えて書く」と負担にならないこと、残りの苦しい1年生時代を乗り越えて2年生になれば、新入生も入り、教師たちもAのことを忘れるはずだ……」などを伝えました。

Aが3年生になった春、母親から喜びの連絡がありました。「Aが人生初のアルバイトを始めた…」ということでした。私は「学校の教員以外の大人たちとの出会いが、Aにとって大切な経験になると思います。」という返事を届けました。「校則」を使って子どもを弾圧し続ける「日本の学校」を国民の連帯で変えたい：学校に「人間」を取り戻したいという思いを新たにしています。